

## 揖斐農林事務所の普及活動状況 令和6年3月25日現在

### ぎふ農畜水産物のブランド展開

#### ■水稲・小麦・大豆種子 栽培研修会

2月28日、JAいび川大野営農経済センターで大野町採種圃生産組合の栽培研修会が開催された。農業普及課から令和5年産の水稲、小麦、大豆の種子生産の振り返りと令和6年産栽培に向けた注意点等を情報提供した。R6年は暖冬の影響により、小麦の生育が例年より進んでいたことから、生育状況に応じた肥料管理等を説明した。近年は各品目で気象変動による生育への影響や病害虫の発生等の課題があり、6年産の優良種子生産のため、引き続き情報提供など支援を行っていく。



【栽培研修会の様子】

#### ■麦 共励会表彰式

3月14日に岐阜市で令和5年度岐阜県麦作共励会表彰式が開催された。集団の部で揖斐地域から池田町の萩原農業生産組合が優良賞を受賞した。同組合は小麦「イワイノダイチ」を14.4ha栽培し、作業の効率化による10a当たり労働時間2.9hr、生産物の1等比率90.9%などの成績が評価された。

農業普及課では共励会参加にあたり組合の取り組みの資料化などの支援を行ってきた。今後は優れた取り組みを地域へ波及できるよう普及活動を行っていく。



【表彰を受ける新井組合長】

#### ■かき かき生産者大会の開催

3月23日、大野町総合町民センターにて、大野町かき振興会が会員約250名を集めて4年ぶりに生産者大会が開催された。令和5年度の出荷に関する表彰や、次年度に向けた取り組みなどが説明された。記念講演では出荷市場の役員から「かき産地への期待と販売の展望」について講演され、かきの販売環境や今後の動きなどについて知ることができた。

農業普及課では、今年度の生育や病害虫に対する反省と6年度に向けた対策などの資料を提供し、周知を図った。

大会の開催は、会員らが一丸となってかき産地の生産振興に向かう重要な機会となった。



【大会の様子】

#### ■いちご 中間目揃え会の開催

管内の各いちご生産組合において、春期の出荷に向けた目揃え会が3月8日、15日、22日に開催された。気温が上昇し、出荷量が増加する3月～4月の品質保持のため、市場側から着色基準の順守について依頼があった。農業普及課からは、過熟果対策や春期の管理について情報提供を行った。最近では気温も上がってきており、出荷量も増加する見込みで、今後も高品質なイチゴを継続出荷するため支援を行っていく。



【目揃え会の様子】

### ■茶 春日茶に関する意見交換会の開催

3月22日、揖斐川町春日振興事務所において、揖斐川町主催で「在来茶」を中心とした春日茶の生産振興に関する意見交換会が開催され、生産・販売者代表、地域づくり協議会等18名が出席した。

揖斐川町では令和6年度に「いび薬草の里づくりプロジェクト」を立ち上げ、薬草文化に加え春日茶を町内外に発信する予定であり、次年度には春日茶の現状調査として栽培ほ場のマップ化を行うことが決定した。

農業普及課では、マップの作成とともに有機栽培への取り組みを支援する。



【会議の様子】

### ■野菜 野菜栽培講習会の開催

3月13日、JAいび川池田東支店において、池田東地区営農部会主催の野菜栽培講習会が開催され、野菜生産者や家庭菜園農家など18名が参加し、農業普及課は講師として出席し、「初夏どり野菜の栽培ポイント」と題し、栽培の基本から、これからのソラマメ、トマト等の管理の注意点について講習を行った。

今後も、定期的に営農部会学習会は開催され、小学校の野菜定植や、農場視察研修などが開催される予定である。



【研修会の様子】

## 中山間地域を守り育てる対策

### ■徳山なんば 6年産用苗の播種を実施

3月2日、道の駅星のふる里ふじはしにおいて徳山なんばの第1回は種作業が行われた。徳山なんば振興協議会員がセルトレイには種し、育苗機にセットした。前年より1ヶ月早く実施することで、生育期間を延ばす計画をしている。農業普及課は、は種方法と芽だしまでの管理について説明した。

作業終了後は、揖斐高等学校が徳山なんばを使って開発したメニューの「ヤムニョムチキン丼（2月20日から販売中）」と開発中の「冷麺」の試食をしながら今後の計画の打ち合わせを行った。次回のは種は、4月上旬を予定しており、次年度にむけて着々と準備が進められている。



【は種作業の様子】